

## 彙 報

会 長 庄垣内 正 弘

### 平成 15 年度第 1 回常任委員会

日 時：平成 15 年 4 月 26 日（土）12:00～17:00

場 所：京都大学文学部小会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、上山あゆみ、熊本 裕、  
中川 裕、林 徹、日比谷潤子、藤代 節、吉田 豊

オブザーバー：吉田和彦（編集委員長）、野田尚史（大会運営委員長）、森 若  
葉（事務局長補佐）

#### [報告事項]

- (1) 常任委員会のメンバーが決定した。
- (2) 4 月 19 日に平成 14 年度の会計監査が行われた。
- (3) 第 127 回大会（平成 15 年度秋季大会）は、大阪市立大学で 11 月 22 日（土）・23 日（日）に開催することを引き受けて貰った。
- (4) 評議員徳永康元氏が 4 月 5 日に逝去した。4 月 25 日に行われた「お別れの会」に「日本言語学会」の名前で弔電と生花を送った。
- (5) 4 月 25 日に『言語研究』第 123 号を発送した。

#### [審議事項]

- (1) 平成 14 年度決算報告  
平成 14 年度の決算報告があり、了承された。[別表 1 参照]
- (2) 平成 15 年度予算  
平成 15 年度予算について常任委員会原案を作成した。[別表 2 参照]
- (3) 各種委員会、小委員会等の旅費、日当の支給についてガイドラインを作成した。
- (4) 第 126 回大会について  
第 126 回大会（平成 15 年度春季大会）の準備状況およびプログラム案が野田尚史大会運営委員長より報告され、了承された。また今後大会に日程変更があった場合の対処について、『言語研究』発送の際に通知を

同封する，ホームページを活用して周知する等の方法が検討された。

(5) 大会ワークショップ等について

野田尚史大会運営委員長からの報告をうけて以下の方針を決め，「ワークショップ規定」(案)の作成を大会運営委員会に委嘱した。

- ・ワークショップの企画立案者は会員に限るが，発表者としての参加はとくに会員に限らないこととする。
- ・ワークショップでの発表と通常の研究発表の同時参加，申し込みは構わない。
- ・ワークショップの発表要旨は『言語研究』に掲載する。  
またポスター発表についても，開催校の負担を考慮のうえ，今後積極的な方向で検討する。

(6) 各委員会等の引継および今後の活動方針について

・編集委員会

吉田和彦編集委員長から，『言語研究』の体裁に関して今後検討していきたいとの報告があった。また『言語研究』掲載論文が他の出版物に再録される場合の対応について検討し，今後はコピーライトが日本言語学会にあることを『言語研究』に示すこととした。

・大会運営委員会

会長の委嘱により大会運営委員長には野田尚史氏が就任し，他に委員11名が決定した。野田委員長より，すでに第126回大会の準備等の活動を開始していることの報告があった。

・夏期講座検討小委員会

委員の一部の交代を6月の委員会で行うこと，次回の夏期講座は2004年8月に京都で行う予定であることが報告された。

・「危機言語」小委員会

今期の委員を6月の委員会で承認した上で，6月22日に行われる予定の第1回小委員会で委員長を決定することが了承された。

・ホームページ小委員会

昨年の第2回委員会で，従来の「ホームページ作業部会」をもとに成立した「ホームページ小委員会」が現在すでに活動を開始していることが報告された。

(7) 評議員徳永康元氏の追悼文を『言語研究』に掲載することを委員会に提案することが了承された。

(8) 第128回大会(平成16年度春季大会)の会場校について検討した。

## 平成15年度 第1回委員会

日 時：平成15年6月21日（土）10:00～13:00

場 所：青山学院大学（青山キャンパス）総研ビル（14号館）3階 第10会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、井出祥子、上山あゆみ、梅田博之、上野善道、大津由紀雄、荻野綱男、生越直樹、加藤重広、菊地康人、北原久嗣、金水 敏、久保智之、窪菌晴夫、郡司隆男、小泉 保、斎藤 衛、坂本 勉、坂本比奈子、崎山 理、清水克正、杉戸清樹、高永 茂、田窪行則、玉岡賀津雄、田村すず子、柘植洋一、辻 星児、角田太作、長嶋善郎、西光義弘、丹羽一彌、野田尚史、林徹、早津恵美子、原口庄輔、樋口康一、日比谷潤子、福井 玲、堀素子、堀江 薫、益岡隆志、町田 健、松本克己、松森晶子、藪 司郎、湯川恭敏、吉田和彦、吉田 豊（以上50名）

委任状：15名

オブザーバー：井上和子（顧問）、梶 茂樹（会計監査委員）、松村一登（会計監査委員）、森 若葉（事務局長補佐）

議事に先立ち、会長の挨拶と会長による新事務局および役員の紹介があった。また大会実行委員長の青山学院大学外池滋生氏より挨拶があった。

## [報告事項]

- (1) 第126回大会（平成15年度春季大会）の準備について、またその日程が変更された経緯とその周知の方法について報告があった。
- (2) 第19期日本学会議会員選挙の結果について  
言語学会より推薦の早田輝洋氏（語学文学研究連絡委員会）、崎山理氏（東洋学研究連絡委員会）とも選出にはいたらなかった。
- (3) 大学評価委員会評価員候補者の推薦について  
大学評価・学位授与機構より大学評価委員会評価員の推薦依頼があった。前常任委員会で検討の上、分野別教育評価「人文学系」1名、同研究評価2名の候補を推薦した。
- (4) 科学研究費補助金審査委員候補者の推薦について  
語学文学研究連絡委員会委員長より推薦の依頼があり、昨年にならない日本音声学会、日本フランス語学フランス文学会、日本独文学会、日本中国語学会と協議の上、言語学会が取りまとめて候補を推薦することとなった。推薦人数は、新方式による審査委員候補者推薦の第2年目として、今期は委員の半数が交代するため、第1段審査委員候補者として言

語学会 6 名, 音声学会 3 名, 日本フランス語学フランス文学会, 日本独文学会, 日本中国語学会各 1 名, 第 2 段審査委員候補者として言語学会 2 名, 音声学会 1 名を推薦した。言語学会からの推薦については, 5 月 18 日投票締切り, 同 21 日開票で委員による郵便投票を行い, 候補者を選出した。

- (5) 平成 15 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)は 280 万円に決定した。
- (6) 4 月 26 日に行われた第 1 回常任委員会についての報告が行われた。
- (7) 各種委員会の活動報告
  - (A) 編集委員会(吉田和彦委員長)
 

『言語研究』の編集方針について説明があった。また前委員会からの引継ぎ事項として今後『言語研究』の体裁の変更について検討したい旨の報告があった。
  - (B) 大会運営委員会(野田尚史委員長)
 

第 126 回大会では発表応募件数 71 件中 44 名の発表を採択したこと(採択率 62%), 教室が小さく分散してほしいとの開催校からの要望により 6 会場を設定したこと等が報告された。
  - (C) 「危機言語」小委員会
 

委員長未選出のため, 庄垣内正弘会長より 6 月 22 日に第 1 回の委員会を開いて委員長を選出する予定であることが報告された。
  - (D) 夏期講座検討小委員会(荻野綱男委員長)
 

次回第 4 回夏期講座は 2004 年 8 月に京都で行われることが決定したこと, 参加費, 宿泊費はこれまでとほぼ同額になる予定であることが報告された。
  - (E) ホームページ小委員会(松村一登委員長)
 

委員会は会議形式でなく基本的にメールでのやりとりという形で行われていること, 委員会経費はソフトウェア購入や英文チェックのための謝金に使用したいこと, ホームページは近いうちに全面改定の予定であることが報告された。
- (8) 評議員徳永康元氏が 4 月 5 日に逝去したこと, 4 月 25 日の「お別れの会」に「日本言語学会」の名前で弔電と生花を送ったことが報告された。

[審議事項]

- (1) 平成 14 年度決算について
 

平成 14 年度決算報告があり, 質疑のうえ承認された。これは 2003 年 4

月 19 日に荻野綱男、窪園晴夫両会計監査委員によって、適正と認められたものである [別表 1 参照].

- (2) 平成 15 年度予算について  
平成 15 年度予算案を審議し原案に従って決定した [別表 2 参照].
- (3) 第 127 回大会について  
第 127 回大会 (平成 15 年度秋季大会) を 11 月 22 日 (土)・23 日 (日) に大阪市立大学文学部で開催することが決定した。大会実行委員長は小林標氏である。
- (4) 夏期講座検討小委員会委員の交代について  
荻野綱男委員長より委員の交代が提案された。田窪行則、松村一登両委員が退任し、堀川智也氏が新委員に就任するとともに、夏期講座 2004 の実行委員長を務めることが決定した。
- (5) 「危機言語」小委員会の委員の決定について  
今期の「危機言語」小委員会の委員として、遠藤史、奥田統己、風間伸次郎、梶茂樹、金子亨、呉人恵、佐々木冠、坂本比奈子、笹間史子、田村すず子、角田太作、中山俊秀、稗田乃、宮岡伯人、村崎恭子の各氏が決定した。
- (6) 「研究発表に関する規定」の改定ならびに「ワークショップに関する規定」の制定について  
野田尚史大会運営委員長より「研究発表に関する規定」の改定が提案され、審議のうえ決定された [別記 1 参照]。なお共同研究の場合、発表者全員が会員に限るかどうかにについては継続審議となった。  
「ワークショップに関する規定」について同じく野田尚史大会運営委員長から提案があり、審議のうえ決定された [別記 2 参照]。
- (7) 第 17 回国際言語学会議への日本言語学会代表選出と CIPL 連絡委員の交代について  
7 月 24 日～29 日にプラハで行われる同会議について、会長より、開催まで時間が迫っていることから、前回のバリ会議に日本代表として出席しその後現在まで連絡委員をつとめている下宮忠雄氏とも相談のうえ、今回は長嶋善郎氏を会長指名により言語学会代表とし、また次期の連絡委員を務めて貰うこととしたいという提案があり、承認された。
- (8) 選挙管理委員の選挙を行い、影山太郎、金水敏、窪園晴夫、郡司隆男、田野村忠温、野田尚史、山梨正明、吉田豊の各氏 (計 8 名) を選出した。次点は崎山理氏であった。
- (9) 評議員徳永康元氏の逝去にともない、追悼文を『言語研究』に掲載することが提案され承認された。

〔別記1〕 研究発表に関する規定の改訂

(旧)

4. 研究発表希望者は、発表要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締め切りは、春季大会は3月31日、秋季大会は8月31日（いずれも必着）とする。
5. A4用紙1枚に発表題目、氏名（ふりがな）、住所、所属機関、職名、連絡先電話番号（及びe-mail、ファックス番号）を書く。なおオーバーヘッドプロジェクター（OHP）、テープレコーダーなどの使用を希望する場合は、その旨も明記する。
7. 発表要旨は以下の点に留意して書く。題は内容を明快に反映するものとし、できるだけ簡潔にする。要旨の内容には、問題の所在、研究の独自性、重要性、主張・論点を十分に反映させ、必要に応じ、具体的な実例や資料も示す。特殊な文字や略語は可能な限り避ける。
12. 研究発表者は、事務局から指定された期日までに予稿集原稿と『言語研究』掲載用の発表要旨を提出する。予稿集原稿は、別項「予稿集原稿作成要領」に従って作成する。『言語研究』掲載用の発表要旨は、和文は400字以内、英文は120語以内とする。特殊な文字は可能な限り避ける。
11. 研究発表者は、当日、各自の発表の直前の休憩時間までに会場受付に到着の旨連絡する。

(新)

4. 研究発表希望者は、発表申込書と発表要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締め切りは、春季大会は3月31日、秋季大会は8月31日（いずれも必着）とする。
5. 発表申込書はA4用紙1枚に、発表題目、氏名（ふりがな）、住所、所属機関、職名または身分、連絡先電話番号（及びe-mail、ファックス番号）を書く。なお、発表に際して機器の使用を希望する場合は、その旨も明記する。
7. 発表要旨は以下の点に留意して書く。題目は内容を明快に反映するものとし、できるだけ簡潔にする。要旨の内容には、問題の所在、研究の独自性、重要性、主張・論点を十分に反映させ、必要に応じ、具体的な実例や資料も示す。特殊な文字や略語は可能な限り避ける。
11. 研究発表者は、事務局から指定された期日までに予稿集原稿と『言語研究』掲載用の発表要旨を提出する。予稿集原稿は、別項「予稿集原稿作成要領」に従って作成する。『言語研究』掲載用の発表要旨は、和文は400字以内、英文は120語以内とする。特殊な文字は可能な限り避ける。
12. 研究発表者は、当日、各自の発表の直前の休憩時間までに会場受付に到着の旨連絡する。

次の修正日時を追加する：  
(平成 15 年 6 月 21 日修正案可決)

## 【別記 2】ワークショップに関する規定の制定

### ワークショップに関する規定

1. ワークショップの企画者及び司会者は会員に限る。(ワークショップの発表者については、非会員も認める。)
2. 他学会で行った企画及び応募中の企画を本学会に二重に申し込むことはできない。
3. 使用言語は自由とする。ただし、日本語及び英語以外の言語を使用するときは、企画者の責任で日本語または英語の通訳を付けることとする。
4. ワークショップ企画希望者は、企画申込書と企画全体の要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締め切りは、春季大会は3月31日、秋季大会は8月31日(いずれも必着)とする。
5. 企画申込書はA4用紙1枚に次の事項を書く。
  - ・ワークショップ題目
  - ・企画者の氏名(ふりがな)、住所、所属機関、職名または身分、連絡先電話番号(及びe-mail、ファックス番号)
  - ・司会者の氏名(ふりがな)、所属機関、職名または身分
  - ・発表者の氏名(ふりがな)、所属機関、職名または身分、発表題目
  - ・機器の使用希望の有無
6. ワークショップ要旨はA4用紙2枚に書く。和文・英文とも10ポイント以上のフォントを用いる。冒頭にワークショップ題目を記すが、氏名や所属等は書かない。ワークショップ要旨は6部(コピー可)提出する。
7. ワークショップ要旨は以下の点に留意して書く。題目は内容を明快に反映するものとし、できるだけ簡潔にする。要旨の内容には、問題の所在、研究の独自性、重要性、主張・論点を十分に反映させ、必要に応じ、具体的な実例や資料も示す。特殊な文字や略語は可能な限り避ける。
8. ワークショップには一企画あたり2時間程度が割り当てられるので、ディスカッションも含めて、時間内に収まる範囲で企画すること。会場やプログラムの都合上、他のワークショップや研究発表との並列開催の可能性もある。
9. 採否は大会運営委員会が決定する。
10. ワークショップ企画採択者には本学会事務局からワークショップの日時を予め通知する。
11. ワークショップ企画者は、事務局から指定された期日までに予稿集原稿と

『言語研究』掲載用のワークショップ要旨を提出する。予稿集原稿は、別項「予稿集原稿作成要領」に従って作成する。『言語研究』掲載用のワークショップ要旨は、和文は2000字以内、英文は600語以内とする。特殊な文字は可能な限り避ける。

12. ワークショップ企画者は、当日、司会者及び発表者の到着を確認した上で、割り当てられた時間の直前の休憩時間までに会場受付に到着の旨連絡する。

(平成15年6月21日 委員会決定)

#### 平成15年度第1回「危機言語」小委員会

日 時：平成15年6月22日（日）12:30～16:00

場 所：青山学院大学1号館3階 131教室

出席者：遠藤 史，奥田統己，風間伸次郎，梶 茂樹，金子 亨，呉人 恵，坂本比奈子，佐々木冠，笹間史子，田村すず子，角田太作，中山俊秀，稗田 乃，宮岡伯人

オブザーバー：佐藤昭裕（事務局長）

議事に先立ち、庄垣内正弘会長より、6月21日の言語学会委員会で今期の「危機言語」小委員会メンバーが承認され、小委員会が成立したことの報告があった。ついで互選により宮岡伯人氏（大阪学院大学）が委員長に選出され、庄垣内会長は退席した。

#### [議事と報告]

(1) 委員の追加について

渡辺己氏（香川大学）、千葉庄寿氏（麗澤大学）に新たに委員として参加していただく由、推薦があった。

(2) 委員長補佐の選出について

呉人恵氏（富山大学）を委員長補佐に選出した。

(3) 平成15年度の予算について

予算案の報告とその用途についての審議がなされた。

(4) 委員会の今後の活動の基本的方向について

宮岡新委員長から委員会活動の基本的方向として以下の4つの柱が提案された。

1) 特定領域研究（ELPR）以降の危機言語研究推進の母体としての活動

2) 日本言語学会内に向けての啓蒙活動

・『言語研究』に「危機言語調査報告」という新たなカテゴリーを加えていただくよう要望する。

- ・大会において危機言語に関するポスターセッションを設け、できれば今秋から若手研究者に対する啓蒙活動ができるように要望する。

- ・若手研究者の育成を行なう。

3) 日本言語学会外ならびに一般に向けての啓蒙活動

- ・シンポジウム・講演会の開催

- ・一般・政府・教育諸機関への働きかけ

4) 国際的・学際的交流活動

- ・海外研究者との情報交換, 成果の国際的発信

- ・ユネスコとの連携

- ・NPO などとの連携による言語外的諸問題への取り組み

なお、各柱の取りまとめとして、1) 宮岡伯人氏、2) 坂本比奈子氏（麗澤大学）、3) 金子亨氏、4) 角田太作氏（東京大学）が、また、2) のアドバイザーとして田村すず子氏（早稲田大学）が指名された。

(5) ホームページの更新について

日本言語学会のホームページ小委員会にメーリングリストの作成を含め、技術的サポートを委託することが審議された。

平成 15 年度第 1 回夏期講座検討小委員会

日 時：2003 年 6 月 20 日（金）14:00～18:00

場 所：早稲田奉仕園セミナーハウス

出席者：西光義弘、荻野綱男、堀川智也、三原健一、風間伸次郎、日比谷潤子、田窪行則、松村一登

【議題】

(1) 夏期講座検討小委員会の組織など、翌 6 月 21 日の委員会での審議事項について

(2) 夏期講座 2004 の開催について

宿泊をコープイン京都とし、夏期講座会場を大学コンソーシアム京都とする。

夏期講座の時間割、科目名、講師候補などを決定した。また、付属するナイトセッション・懇親会などについてもおよその計画を立てた。

(3) 今年度の夏期講座検討小委員会の活動予定について

次回会議は 11 月 21 日（金）に京都で行い、日本言語学会の活動・組織の中での夏期講座の位置づけを検討し、夏期講座 2004 の予算案を決定する。

〔別表1〕 平成14年度 日本言語学会決算

自 平成14年4月 至 平成15年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	14,025,500	刊 行 費	8,382,570
雑 誌 売 上	789,250	発 送 費	523,540
科学研究費補助金	2,400,000	編 集 費	886,052
預 金 金 利	4,228	事 務 委 託 費	4,284,000
大会関係収入	1,444,000	大 会 関 係 費	3,025,148
雑 収 入	35,932	委 員 会 費	238,245
積立からの繰り入れ金	4,950,000	常 任 委 員 会 費	517,212
夏期講座会計より	418,839	大 会 運 営 委 員 会 費	770,156
		「危機言語」小委員会費	276,007
		夏期講座検討小委員会費	109,210
		選 挙 関 係 費	689,140
		名 簿 作 成 費	2,170,115
		夏 期 講 座 費	1,500,000
		CIPL 負 担 金	100,000
		通 信 費	479,123
		事 務 局 費	703,636
		消 耗 品 費	163,155
		ホームページ作成費	136,500
		雑 費	0
		予 備 費	0
		夏期講座積立金	600,000
		記念大会積立金	400,000
		危機言語プロジェクト積立金	400,000
収 入 合 計	24,067,749	支 出 合 計	26,353,809
前 期 繰 越 金	2,316,502	次 期 繰 越 金	30,442
計	26,384,251	計	26,384,251

## 「夏期講座関係」

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
夏期講座収入	8,257,638	夏期講座支出	9,338,799
言語学会事務局から入金	1,500,000	言語学会事務局へ送金	418,839
収 入 合 計	9,757,638	支 出 合 計	9,757,638

◇収入内訳 (単位 円)

会費

国内個人会員	11,992,500
国内維持会員	120,000
国内学生会員	472,000
国内団体会員	976,500
国内賛助会員	30,000
在外個人会員	392,500
在外学生会員	16,500
在外団体会員	25,500

合 計 14,025,500

雑誌売上

三省堂書店	53,550
松香堂書店 (取り次ぎ業務委託)	446,600
丸 善	201,600
その他書店	63,000
バックナンバー売上	24,500

合 計 789,250

科学研究費補助金 2,400,000

預金金利 4,228

大会関係収入

125 回大会出店料	30,000
124 回大会出店料	120,000
118~123 回大会予稿集売上	63,500
124 回大会予稿集売上	822,500
125 回大会予稿集売上	408,000

合 計 1,444,000

## 雑収入

121号抜刷代	22,560
122号抜刷代	13,042
予稿集コピーサービス	330
合 計	35,932

## 積立からの繰入金

平成13年度選挙積立より	300,000
平成13年度名簿積立より	700,000
平成12年度選挙積立より	300,000
平成12年度名簿積立より	700,000
平成11年度夏期講座積立より	750,000
平成8年度積立より	2,200,000
合 計	4,950,000

夏期講座会計より 418,839

※夏期講座会計より事務局へ

## ◇支出内訳 (単位 円)

## 刊行費

内訳	122号(264p.)	123号(420p.)	計(684p.)
印刷費	3,215,520	5,081,580	8,297,100
抜刷代	40,005	45,465	85,470
合 計	3,255,525	5,127,045	8,382,570

\*印刷部数 各号共に2,400部

\*割付・校正料は印刷費に含む

発送費 523,540

『言語研究』 送料 (追加送料は含まない)

編集費

通信費	113,300
会議費	58,752
旅 費	289,000
アルバイト費	425,000

合 計 886,052

事務委託費 4,284,000 2002年4月分～2003年3月分  
 日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務  
 委託内容の覚書に基づく業務の代金

大会関係費

内 訳	第124回	第125回	計
プログラム印刷費	139,650	139,650	279,300
ポスター印刷費	73,500	73,500	147,000
出欠葉書印刷費	22,050	22,050	44,100
プログラム発送費	219,590	183,470	403,060
大 会 費	490,466	418,722	909,188
予稿集印刷費	598,500	504,000	1,102,500
	(650部発行)	(550部発行)	
講師謝金	70,000	70,000	140,000
合 計	1,613,756	1,411,392	3,025,148

委員会費

通信費	29,410
会議費	208,835

合 計 238,245

常任委員会費

会議費	64,522
旅 費	452,690

合 計 517,212

大会運営委員会費	
会議費	109,656
旅 費	660,500
合 計	770,156
「危機言語」小委員会費	
通信費	5,915
会議費	72,092
旅 費	98,000
アルバイト費	100,000
合 計	276,007
夏期講座検討小委員会費	
通信費	210
会議費	14,000
旅 費	95,000
合 計	109,210
選挙関係費	
選挙人名簿印刷	126,000
送付状等印刷	149,100
通信費	414,040
合 計	689,140
名簿作成費	
名簿印刷費	1,200,000
送付状等印刷費	112,875
発送費・通信費	857,240
合 計	2,170,115

夏期講座経費

1,500,000

※事務局より夏期講座会計へ

CIPL 負担金 100,000

通信費

切手購入	106,760
銀行 FAX 料金	17,220
会費請求・督促状送付	53,180
カード手数料・送金手数料	84,672
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー発送	46,764
発表採否通知・司会者依頼状等大会関係送料	119,957
その他（科研費提出書類発送等）	50,570

---

合 計 479,123

\*みずほ銀行ファクシミリ手数料は4月から11月まで  
1,260円, 12月から3月までは1,785円(1ヶ月あたり)

事務局費

通信費	840
会議費	63,681
旅 費	159,010
消耗品費	105
事務局長費・事務局長補佐経費	480,000

---

合 計 703,636

消耗品費

文房具（領収証等）	405
封筒・振替用紙（印刷費含む）	114,450
会費納入依頼など（印刷費含む）	48,300

---

合 計 163,155

ホームページ作成費 136,500

雑費 0

予備費	0
夏期講座積立金（定期へ）	600,000
危機言語プロジェクト積立金（定期へ）	400,000
記念大会積立金（定期へ）	400,000

◇平成14年度 予算・実績対照表  
収入

(単位 円)

科 目	予 算	実 績	対予算差異
会 費	14,500,000	14,025,500	△ 474,500
雑 誌 売 上	2,000,000	789,250	△ 1,210,750
科学研究費補助金	2,400,000	2,400,000	0
預 金 金 利	15,000	4,228	△ 10,772
大会関係収入	1,400,000	1,444,000	44,000
雑 収 入	35,000	35,932	932
積立からの繰入金	3,500,000	4,950,000	1,450,000
夏期講座会計より	0	418,839	418,839
収 入 合 計	23,850,000	24,067,749	217,749
前期繰越金	2,316,502	2,316,502	0
合 計	26,166,502	26,384,251	217,749

△=実績-予算

## 支出

(単位 円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	7,600,000	8,382,570	△ 782,570
発送費	600,000	523,540	76,460
編集費	750,000	886,052	△ 136,052
事務委託費	4,284,000	4,284,000	0
大会関係費	3,200,000	3,025,148	174,852
委員会費	200,000	238,245	△ 38,245
常任委員会費	600,000	517,212	82,788
大会運営委員会費	600,000	770,156	△ 170,156
「危機言語」小委員会費	300,000	276,007	23,993
夏期講座検討小委員会費	200,000	109,210	90,790
選挙関係費	900,000	689,140	210,860
名簿作成費	2,100,000	2,170,115	△ 70,115
夏期講座費	1,500,000	1,500,000	0
C I P L 負担金	100,000	100,000	0
通信費	500,000	479,123	20,877
事務局費	700,000	703,636	△ 3,636
消耗品費	200,000	163,155	36,845
ホームページ作成費	300,000	136,500	163,500
雑費	32,502	0	32,502
予備費	100,000	0	100,000
夏期講座積立金	600,000	600,000	0
記念大会積立金	400,000	400,000	0
危機言語プロジェクト積立金	400,000	400,000	0
			0
			0
支出合計	26,166,502	26,353,809	△ 187,307
次期繰越金		30,442	△ 30,442
合計	26,166,502	26,384,251	△ 217,749

△=予算-実績

◇資産勘定

(単位 円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
本部事務局		前受会費	
現金	1,052,433	国内個人	197,500
みずほ銀行 普通	6,451,131	国内学生	103,000
定期	7,050,000	国内団体	7,000
郵便振替貯金	1,312,253	在外個人	50,000
カード	0	在外学生	0
事務局		積立金繰入	7,050,000
事務局口座	0	未払金	8,427,875
常任委員会口座	0		
仮払金	0	次期繰越	30,442
計	15,865,817	計	15,865,817

\* 未払金は当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目

\* 平成 14 年度決算の未払金は『言語研究』第 123 号の印刷費，抜刷代，123 号発送費，事務委託費 1～3 月分，選挙送付状・選挙細則印刷費，名簿印刷費，名簿発送費

## ◇みずほ銀行定期（内訳）

	(単位 円)
平成 14 年度夏期講座積立金	600,000
平成 14 年度危機言語プロジェクト積立金	400,000
平成 14 年度記念大会積立金	400,000
平成 13 年度夏期講座積立金	400,000
平成 13 年度危機言語プロジェクト積立金	400,000
平成 13 年度記念大会積立金	400,000
平成 12 年度夏期講座積立金	400,000
平成 12 年度危機言語プロジェクト積立金	200,000
平成 12 年度記念大会積立金	400,000
平成 11 年度記念大会積立金	500,000
平成 10 年度記念大会積立金	250,000
平成 10 年度危機言語積立金	500,000
平成 9 年度積立金	2,200,000
計	7,050,000

◇項目ごとの内訳

記念大会積立金		(1,950,000)
	平成 14 年度	400,000
	平成 13 年度	400,000
	平成 12 年度	400,000
	平成 11 年度	500,000
	平成 10 年度	250,000
夏期講座積立金		(1,400,000)
	平成 14 年度	600,000
	平成 13 年度	400,000
	平成 12 年度	400,000
危機言語プロジェクト積立金		(1,500,000)
	平成 14 年度	400,000
	平成 13 年度	400,000
	平成 12 年度	200,000
	平成 10 年度	500,000
積立金	平成 9 年度	2,200,000

---

計

7,050,000

## 〔別表2〕平成15年度日本言語学会予算

自 平成15年4月 至 平成16年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	14,250,000	刊 行 費	7,600,000
雑 誌 売 上	1,200,000	発 送 費	500,000
科学研究費補助金	2,800,000	編 集 費	700,000
預 金 金 利	4,000	事 務 委 託 費	4,284,000
大会関係収入	1,400,000	大会関係費	3,200,000
雑 収 入	50,000	委 員 会 費	250,000
積立からの繰り入れ金	2,200,000	常 任 委 員 会 費	600,000
		大会運営委員会費	750,000
		「危機言語」小委員会費	300,000
		夏期講座検討小委員会費	200,000
		CIPL 負 担 金	100,000
		通 信 費	500,000
		事 務 局 費	700,000
		消 耗 品 費	200,000
		ホームページ小委員会費	300,000
		雑 費	50,442
		予 備 費	100,000
		<積立金>	
		選挙関係積立金	300,000
		名簿作成積立金	700,000
		夏期講座積立金	600,000
収 入 合 計	21,904,000	支 出 合 計	21,934,442
前 期 繰 越 金	30,442	次 期 繰 越 金	0
計	21,934,442	計	21,934,442

第126回大会

期 日 2003年6月21日(土)~22日(日)

会 場 青山学院大学(渋谷キャンパス)

第1日(6月21日)

開会挨拶

開会の辞

会 長

開催校挨拶

石崎 晴己

会長就任講演

文献研究と言語学—ウイグル語における  
漢字音の再構と漢文訓読の可能性—

庄垣内 正弘

シンポジウム

「関連性理論—人間の認知解明に迫る語用論」

司会 外池 滋生

講師 今井 邦彦「関連性理論の射程」

西山 佑司「発話解釈に対する制約」

総 会

第2日(6月22日)

研究発表 午前10時から

・A会場

司会 早津恵美子

(A 1) 10:00~ 職場での呼称使用に対する韓国人の属性・ 林 炫 情  
対人関係特性・性格特性の影響 玉岡 賀津雄

(A 2) 10:35~ 「王様」, 「罨」, 「牢獄」 鍋島 弘治朗  
—価値的意味とメタファー—

司会 佐藤 琢三

(A 3) 11:25~ 共感覚表現のデータベース作成と 白 輪 祐 也  
それに基づく—方向性仮説再考 坂 本 真 樹

(A 4) 12:00~ 漢字の認知的意味に対する部首の影響 玉岡 賀津雄  
—サンズイとイトヘンの場合—

司会 広瀬 友紀

(A 5) 13:30~ 日本語を母語とする成人と小学生の 坂 本 洋 子  
語彙認識における分節のメカニズム

(A 6) 14:05~ 語彙候補活性化モデルにおける音韻単位の 大 竹 孝 司  
普遍性について

- 司会 佐野 哲也
- (A 7) 14:55~ 日本語の子供における *Wh* 疑問文の 平野 尚美  
獲得研究：付加詞 *Wh* 句「なぜ」と「どうして」の解釈
- (A 8) 15:30~ 幼児による「*WH*+も」の習得について 山腰 京子
- ・B会場
- 司会 上山あゆみ
- (B 1) 10:00~ 完全 *pro* 脱落言語としての日本語の分析 外池 滋生
- (B 2) 10:35~ Japanese *V-aw* constructions 中尾 千鶴
- 司会 前田 直子
- (B 3) 11:25~ 譲歩条件構文における相関的スケール性 澤田 治  
について一日英対照言語学的アプローチ
- (B 4) 12:00~ 条件文の機能的意味と事態の肯否 川 崑 信 恵
- 司会 渋谷 勝己
- (B 5) 13:30~ The motions of clothing the body Donald L. Smith  
in Japanese and English
- (B 6) 14:05~ シネクドキと「全体一部分」の 笠貫 葉子  
メトニミーに関する一考察
- 司会 井上 優
- (B 7) 14:55~ 「～てみろ」構文について 根本 典子
- (B 8) 15:30~ 名詞に接続する「など」の意味・機能 陳 連 冬  
一明治期と現代との比較を中心に一
- ・C会場
- 司会 小泉 政利
- (C 1) 10:00~ 歴史・方言データからみた分裂文の 吉村 紀子  
意味と構造 仁科 明
- (C 2) 10:35~ A Comparative Study on the Predicate 小谷 早稚江  
Cleft Constructions in Japanese and African Languages
- 司会 阿部 潤
- (C 3) 11:25~ 遊離数量詞の構成素性と等位接続 木村 宣美
- (C 4) 12:00~ 語法の観察に基づく結果構文再考 李 在 鎬  
一構文の制約を中心に一
- 司会 郡司 隆男
- (C 5) 13:30~ Resumption and Relativization in Japanese 真 鍋 守
- (C 6) 14:05~ 『A や B』の形式的意味と語用論的適切性 田中 大輝  
条件について

- 司会 伊藤たかね
- (C 7) 14:55~ 3項・2項交替動詞の統語構造と語形成 外崎 淑子
- (C 8) 15:30~ A Configurational Approach to  
Theta-marking in Japanese Light Verb Constructions 相原 昌彦
- 。D会場
- 司会 林 徹
- (D 1) 10:00~ 台湾およびフィリピン諸語の使役文：  
動詞焦点クラスによる被使役者の格標示 野島 本 泰
- (D 2) 10:35~ キルギス語の受動文にみられる複数の  
動作主マーカ―について 大崎 紀子
- 司会 定延 利之
- (D 3) 11:25~ ヒンディー語における動詞複合による  
モダリティ表現 西岡 美樹
- (D 4) 12:00~ ユーヴェ語の属性名詞  
―「いつも」、「しばしば」を表す表現― 佐藤 寛子
- 司会 角道 正佳
- (D 5) 13:30~ 現代モンゴル語の「二重直接目的語」構文 梅谷 博之
- (D 6) 14:05~ 接触言語としての「蒙文直訳体」 川澄 哲也
- 司会 生越 直樹
- (D 7) 14:55~ 「VNする」の自他交替とアスペクト 金 英淑
- (D 8) 15:30~ 韓国語済州島方言における形容詞の  
アスペクトの対立について 金 光珠
- 。E会場
- 司会 田端 敏幸
- (E 1) 10:00~ 子音対応法則からみた朝鮮語の起源：  
Bali-Sasak 語亜群（西マラヨポリネシア語群）  
および Bima-Sumba 諸語との系統的近縁性 大西 耕二
- (E 2) 10:35~ “Volitionality” と “Responsibility”  
―インドネシア語における3種の受動表現  
'di-' 'ter-' 'ke-an' ― 湯浅 章子
- 司会 服部 文昭
- (E 3) 11:25~ 指小語（diminutives）について  
―日本語とロシア語の対照研究― 中尾 裕子
- (E 4) 12:00~ チベット語の動詞述語「Vpf-pa ^ree」  
の機能 海老原 志穂

- 司会 柘植 洋一
- (E 5) 13:30~ タラウド語における世代差・音声、音韻と語彙に関して 内海 敦子
- (E 6) 14:05~ ルワ語（バンツー諸語）の動詞音調一音調列右方移動の問題を中心に一 品川 大輔
- 司会 中川 裕
- (E 7) 14:55~ 韓国の釜山方言のアクセント体系一複合名詞のアクセント規則を中心に一 姜 英淑
- (E 8) 15:30~ デンマーク語の3型ストレスアクセント 三村 竜之
- F会場
- 司会 田窪 行則
- (F 1) 10:00~ 長距離受け身の HPSG に基づく分析 橋本 力
- (F 2) 10:35~ Does scrambling in Japanese obey the Coordinate Structure Constraint? 矢田部 修一
- 司会 久保 智之
- (F 3) 11:25~ 母音無声化現象には代償作用が見られるか 洪 心怡
- (F 4) 12:00~ Variability and stability of F0 movements in Russian under changes in speech rate 五十嵐 陽介

ワークショップ 13:30~

◦ F会場

「ことばの科学の新しいツールー脳機能計測機器を用いた文法研究の可能性ー」

司会 酒井 弘

発表者 尾島 司郎「脳磁図 (MEG) を用いた複合動詞の研究」  
橋本龍一郎「fMRI からみた統語処理の脳内メカニズム」  
中尾 美月「意味処理に関わる事象関連電位」

## ◇ 退 会

国内個人会員	91名
在外個人会員	15名
国内団体会員	4件

---

◇ 本学会評議員徳永康元氏は、平成15年4月5日心筋梗塞のため死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

---

◇ 本誌は、日本学術振興会平成15年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。